



郷土史

ていね

第54号
平成24年6月13日
手稲郷土史研究会会報

第73回（平成24年5月9日）定例会の講演

手稲の公園

～ 星置緑地、稲穂ひだまり、富丘西公園 等 ～

手稲区土木部維持管理課公園緑化係 佐藤 いずみ 氏

公園とは

公園は利用目的により呼び方を区別している。

街区公園は、半径250m程度の街区に居住する人々が利用する公園で、手稲区には260ヶ所ある。多くの人たちの身近な公園というイメージだと思われる。かつては児童公園と呼ばれていたものである。

近隣公園は、半径500m程度の街区に居住する人々が利用する公園で、手稲区には稲穂ひだまり公園、下手稲公園など14ヶ所ある。

地区公園は、半径1km程度の徒歩圏内に居住する人々が利用する公園で、手稲区には富丘西公園、前田公園など5ヶ所ある。

都市緑地は、主として、都市の自然環境の保全ならびに改善、都市景観の向上を図るために設けられている緑地で、手稲区には星置緑地など19ヶ所ある。手稲は河川が多いので河川緑地とも呼ばれる新川緑地、軽川緑地などもこの都市緑地に相当する。

そのほか総合公園、運動公園などがあり、総合公園は前田森林公園がそれで、総合的な利用ができる公園である。稲積公園が運動公園で運動施設がたくさん設置されている。



数で見る手稲区の公園

手稲区の公園は約300ヶ所あり、札幌市内では3番目に多い。北区が490ヶ所で一番多く、次が西区、333ヶ所である。

1人当たりの面積は約20m²で、市内で2番目に広い（平成23年3月現在で）。一番広いのは清田区である。手稲区は公園に恵まれた区であるいえる。

公園の自生植物保全の取り組みについて

手稲区にある富丘西公園、星置緑地、稲穂ひだまり公園には貴重な自生植物がある。富丘西公園ではスズラン、星置緑地ではミズバショウ、稲穂ひだまり公園ではカタクリであるが、住民の人々がそれを認知していないのが実情である。

それを住民の皆さんと一緒に守り育てていこうという取り組みを行うことになった。具体的な活動としては、自然観察会、広報誌「手稲緑地通信」の発行による広報活動などである。また、保全活動講習会や日常的な保全作業に市民が参加する取り組みなど、行政が窓口となって、連携した活動を行っている。また、植物やまちづくりの専門家、大学・研究機関の協力を得て、より専門的な活動も進めている。

富丘西公園、星置緑地、稲穂ひだまり公園について

（これらの公園について、公園の特徴やそこに自生している植物について、大変興味ある解説があったのですが、紙面の都合で掲載できませんでした。後に改めて紹介します。）

野生植物保全の取り組みについての課題

- ・ 特定の植物種に関心が集中しがちである。
- ・ 人工的な管理は専門的な管理が不可欠である。
- ・ 植性管理は長期的になるが継続的な専門家の関与が保証されない。
- ・ 長く付き合うと依存体質が生まれてくる。
- ・ 町内会など地域団体主体の活動では、一般のボランティアが入ってきにくい。
- ・ 一般のボランティアだけではリーダーや役割分担が生まれにくい。

（文：小田真二）

有島武郎と狩太共生農団について

前田 館岡 良三 氏

1. 武郎の生涯

- ①1878年（明治11年） 薩摩藩出身の大蔵官僚、有島武の長男として生まれる。
- ②1888年（明治21年） 横浜ミッションスクールから学習院予科に移り、皇太子（後の大正天皇）の学友に選ばれる。
- ③1896年（明治29年） 札幌農学校に進み、新渡戸稲造宅に寄宿。
- ④1901年（明治34年） 家族の反対を押し切り、札幌独立教会の受洗。
- ⑤1903年（明治36年） 米国に留学（3年間）
- ⑥1907年（明治40年） 東北帝国大学農科大学教授として札幌に居を構える。
- ⑦1915年（大正4年） 妻の入院にともない休職し、東京にもどる。
「カインの末裔」「小さき者へ」「生まれ出づる悩み」など、代表作を次々と発表。
- ⑧1922年（大正11年） 農場全体を小作人全員の共有として無償開放することを宣言。
- ⑨1923年（大正12年） 軽井沢の別荘で波多野秋子と心中。



2. 狩太共生農団

- ①1922年（大正11年） 農場が解放された後、農場の組織運営については、有島の友人（森本厚吉）が考えてくれる事になった。
- ②1924年（大正13年） 有限責任・狩太共生農団信用利用組合が設立。
- ③1948年（昭和23年） 土地共有の形態が逕留軍の意に添わなかったらしく、第2次農地改革の対象とされ農団は解散し、農地はそれぞれの農家の持分に従っての私有地となった。

3. 木田金次郎について（「生まれ出づる悩み」の主人公木本青年は、木田金次郎がモデルである。）

- ①1904年（明評台37年） 岩内尋常高等小学校高等科入学。
この時山口村のリーダーであった柏村桃作の長男であった信さんがクラス担任となる。
- ②1908年（明治41年） 東京開成中学に入学、その後中退し、京北中学に編入学。
- ③1910年（明治43年） 学校を中退し帰道、札幌郊外で絵を描く毎日を過ごす。
有島の家を偶然見つけ、スケッチを携えて数日後訪問する。
その後岩内に戻り漁業に従事する。
- ④1918年（大正7年） 有島武郎の「生れ出る悩み」（原題）の新聞連載がはじまる。
- ⑤1950年（昭和25年） 岩内町文化賞受賞。
- ⑥1953年（昭和28年） 「木田金次郎個人展第1回」を丸井今井百貨店で開催。
- ⑦1957年（昭和32年） 北海道新聞文化賞受賞。
- ⑧1962年（昭和37年） 12月15日脳出血のため永眠。

次回の予定

次回（7月11日）は、石狩尚古社館長 中島勝久氏の講演「石狩の井上伝蔵」と上仙学氏の研究発表「光風館に関わるあれこれ」を予定しております。
会場は、視聴覚室です。